



多才で風流を極めた藩主

親子2代続いた茶人の才

初代藩主・有馬豊氏の父で、久留米藩祖の則頼は、豊臣秀吉の身近に仕えた「相伴衆」に選ばれた。則頼の茶席に呼ばれた秀吉は、茶入れや面軸などの珍しい品々を贈っています。父に影響を受けた豊氏も、千利休の弟子「利休十哲」に数えられ、徳川家康から茶入れを贈られるほど、茶人としても一流でした。反面、豊氏は酒を好まず、藩士を採用する時は、大杯に酒を飲ませ、一気飲みする者は採用しなかったと言われています。

久留米藩は、幕末まで絵師を召し抱えるなど、大名家の格式にふさわしい文化を継承していきます。中でも6代藩主・則維に仕えた三谷永伯は、梅林寺やその周辺の景観を三幅対の絵画として描き、当時の様子を今に伝えています。

茶道界の名陶・柳原焼

藩内の文化が、最も隆盛を極めたのは、9代藩主・有馬頼徳の時代でした。茶道は「月船」、書は「水鷗」、絵は「華山」の号で、諸芸に通じていた頼徳は、城内の三ノ丸の東側（現在の久留米大学医学部周辺）に「柳原園」を造ります。その面積は、三町八反で現在の3万7686㎡。園内にある作業場「陶工軒」で焼かれた焼物は、「柳原焼」と呼ばれました。

国内外の名陶を手本にした柳原焼は、幕府や各藩主への贈答品として制作され、市場に出回ることはありませんでした。柳原焼は、茶陶としての評価が高まり、特に、頼徳が自ら焼いた茶碗は、現代の茶道界でも珍重されています。



▲久留米藩お抱え絵師・三谷永伯筆の「源平合戦図屏風」(有馬家蔵)

- 久留米歴代藩主**
- 初代 豊氏 とようじ
 - 二代 忠頼 ただより
 - 三代 頼利 よりとし
 - 四代 頼元 よりもと
 - 五代 頼旨 よりむね
 - 六代 則維 のりふさ
 - 七代 頼僮 よりゆき
 - 八代 頼貴 よりたか
 - 九代 頼徳 よりり
 - 十代 頼永 よりとお
 - 十一代 頼成 よりしげ
- は今回のモノ語りと関わる藩主



▶ 12月11日(出)から来年4月4日(月)まで、有馬記念館で開催。茶道や詩歌に優れた大名有馬家や藩領文化を紹介

◀ 9代藩主・有馬頼徳が自ら制作した「柳原焼黄釉肩衝茶入」(久留米市教育委員会所蔵)

HP ならではの
秘話も連載中!

久留米市顕彰表彰



地道な善行に感謝

10月19日、久留米シティプラザで顕彰表彰式が行われ、10人4団体をつたえました。表彰を受けた皆さんは次の通りです。(敬称略)

- 【交通事故防止】《交通安全運動》
■三小田平(荒木町) ■角栄子(津福今町) ■松本吉廣(田主丸町) ■渡辺貞雄(日吉町)
- 【環境美化の実践】《緑化活動》 ■野田周子(東町)

- 【社会福祉の向上】《校区での子育て支援》 ■京町校区すくすく子育て委員会(大石町) ■小森野校区すくすく子育て支援「きゅうぴい」(小森野) ■篠山校区すくすく子育て委員会(城南町)《青少年の育成》 ■岡靖博(藤光町) ■馬場園由美(津福本町)
- 【体育の普及と振興】《地域スポーツ振興》 ■中村智美(山川町)

久留米市合肥市友好都市締結40周年



両市の中学生が懸け橋に

久留米市と中国安徽省合肥市は、昭和55年に友好都市の締結をしました。筑後川がある本市と、長江と淮河の間に位置する合肥市は、共に豊かな自然に恵まれた都市です。この40年で芸術公演会、書画展、シンポジウム、卓球やサッカーの親善試合などで交流を深めてきました。

平成11年に始まった青少年の交流事業では、両市の中学生が「友好大使」として互いの市を訪問。これまでに本市から207人、合肥市から256人の友好大使が、ホームステイしたり、学校を訪れたりして交流を深めてきました。コロナ禍でも、オンラインで交流を継続しています。今年9月と10月には、両市の中学生20人がZoomで学校の紹介やイベント

トを英語で伝えました。友好都市締結40周年を記念して、11月16日(火)から21日(日)まで、40年の軌跡を振り返る「友好交流展」を市美術館1階で開催。11月20日(土)と21日(日)は石橋文化センターで庭園コンサートもあります。入場無料。

◎観光・国際課(☎0942・309137、FAX0942・309707)



合肥市出身で久留米市在住の解慶子さんが、ふるさとの魅力を語りました

解さんが合肥市を動画で紹介



野田周子さん(前列右から三番目)は、「活動を支えてくれた家族や地域の皆さんのおかげです。この賞を励みに、今後も活動を続けていきます」と謝辞を述べました